

生誕110年
香月泰男展
KAZUKI Yasuo: A Retrospective

記者発表資料
令和3年6月4日(金)
宮城県美術館
担当：学芸部 小檜山
電話：022-221-2113



《釣り床》1941年
東京国立近代美術館

生きることは、
私には
絵を描くことでしかない。

日頃から、宮城県美術館の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。
当館では、2021年7月3日(土)から、特別展「生誕110年 香月泰男展」を開催いたします。
ぜひ貴メディアにて取り上げ、報道・周知していただきたくお願い申し上げます。
なお広報用画像のご使用や招待券プレゼントを希望される場合は、同封の用紙に必要事項を記入の上、当館宛にFAXまたはメールにてお申し込みください。

報道公開 2021年7月3日(土) 午前8時40分～

※本展では開会式を開催しません。(開幕日に講演会を開催します。)

展覧会名 生誕110年 香月泰男展

会 期 2021年7月3日(土)～9月5日(日) ※会期中に一部作品の展示替えを行います。

開館時間 午前9時30分～午後5時(発券は午後4時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日(ただし8月9日は開館)、8月10日(火)

主 催 宮城県美術館、河北新報社

後 援 仙台市教育委員会、NHK 仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、エフエム仙台

監 修 山口県立美術館、香月泰男美術館

企画協力 一般社団法人インディペンデント

入 館 料 一般 1,000(800)円 / 学生 800(600)円 / 小・中・高校生 500(350)円
※()内は20名以上の団体料金

展覧会概要

山口県三隅村（現・長門市）に生まれた香月泰男（1911-1974）は、東京美術学校で学び、国画会から画壇に出ました。澄んだ色彩と独特の叙情性をもつ絵画が注目され始めた矢先、召集を受けて満州へ従軍します。敗戦後にシベリア抑留に遭った香月は、多くの戦友を失った過酷な環境を生き延び、1947年に復員しました。

復員後の香月は、故郷を離れることなく、戦争と抑留の体験を元にした「シベリア・シリーズ」に取り組み、亡くなるまでに57点を描き上げました。黒と黄褐色の重厚な画面に刻まれた、極限状態の苦痛、鎮魂と望郷の思い、厳しくも鮮烈な自然の美しさは、今なお深い衝撃と感動をもたらしてやみません。

本展覧会は、東北に「シベリア・シリーズ」全点が揃う初めての機会となります。また、詩情豊かな初期作品や、身近なモチーフを愛情込めて描いた作品など、「シベリアの画家」に留まらない香月の多彩な魅力を紹介し、その造形とメッセージの本質に迫ります。

関連イベント

■講演会「香月泰男とシベリア・シリーズ」

講師 萬屋健司（山口県立美術館学芸員）

日時 7月3日（土）午後2時～（90分程度、開場は午後1時30分）

会場 講堂

定員 150名 ※先着順（聴講無料） 午後1時より、講堂前にて整理券を配布します。

※報道公開と同日に開催。取材者席を設けています。時間までに直接お越しください。

■まちなか美術講座「シベリア・シリーズの画家 香月泰男の造形」

講師 小檜山祐幹（当館学芸員）

日時 8月21日（土）午後1時30分～（90分程度）

会場 東北工業大学一番町ロビー2階ホール

※ 事前予約制。詳細は東北工業大学一番町ロビー（022-723-0538）にお問い合わせください。

■学芸員による展示解説

日時 7月18日（日）、8月9日（月・祝）、8月29日（日）

いずれも午後2時～（1時間程度、開場は午後1時30分）

会場 講堂

定員 150名 ※先着順（聴講無料）

新型コロナウイルス感染拡大防止に関して ※6月1日現在

マスクを着用してご来館ください。

こまめな手洗い、咳エチケットをお願いします。

体調のすぐれない方のご来館はご遠慮ください。

混雑時は入場制限をすることがあります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本展および関連イベントの予定・運営に変更が生じることがあります。その場合は当館ウェブサイトなどを通じて随時お知らせいたします。

展覧会の見どころ

1. 昭和洋画の巨匠、東北初の大回顧展

香月泰男は、戦後の日本洋画を代表する画家の一人です。シベリア抑留からの復員後は山陰の郷里に留まりながらも、国内外の重要な展覧会や個展での発表を続け、1969年には新潮文芸振興会から第1回日本芸術大賞を受賞しました。また生前から多くのコレクターに親しまれた画家でもありました。

実力と人気を兼ね備えた香月の展覧会は、没後に各地で開催されてきましたが、東北ではまとまった数の作品を見られる機会がなかなかありませんでした。本展覧会は、東北で初めて香月泰男の画業の全体像を見渡す機会となる、待望の大回顧展です。



左から

《兎》1939年 香月泰男美術館

《散歩》1952年 愛知県美術館

2. 戦後美術の傑作、「シベリア・シリーズ」を全点公開

「シベリア・シリーズ」は、復員後の香月が後半生をかけて描き上げた代表作です。57点のすべてが、召集から満州への出征、敗戦、シベリア抑留へと至る実体験に基づいています。例えば《北へ西へ》は、抑留列車が北上、ついで西進したことで、シベリア行きを悟って絶望する姿。《青の太陽》は、匍匐前進の訓練中、ふと地面のアリになりたいと願い、巣穴から青空を見上げた光景を想像して描いたものです。

黒と黄褐色に限られた色彩と、デスマスクのような抑留者たちの顔が並ぶさまからは、暗く、怖い絵という印象を受けるかもしれません。戦争という主題に真摯に取り組み続けたこのシリーズは、日本の戦後美術の傑作として高く評価され、今なお私たちに重いメッセージを投げかけています。本展覧会では、東北で初めて「シベリア・シリーズ」を全点揃って公開します。



左から

《北へ西へ》1959年 山口県立美術館

《青の太陽》1969年 山口県立美術館

3. もうひとつの魅力。色彩とポエジー、身近なものへの愛情

「シベリア・シリーズ」を見ていると、香月泰男は暗く、重たい絵ばかり描く画家のように思えるかも知れません。しかし1940年代までの香月は、美しく澄んだ色彩と、遠い少年の日を思い出させるような、詩的な雰囲気のある絵を描いていました。1950年代には、身近な野菜や魚などを多く描き、「台所の画家」とも呼ばれました。人一倍家族を愛したことでも知られており、ふるさとの風景や親子の睦まじい光景を、「シベリア・シリーズ」と同じ画風で暖かく描いた作品も残しています。

本展覧会では、香月の初期から晩年までの作品を年代に沿って並べることで、「シベリア・シリーズ」を含めた作風の変遷と、「シベリアの画家」に留まらない多彩な魅力をご紹介します。



左から

《風》1948年

東京藝術大学

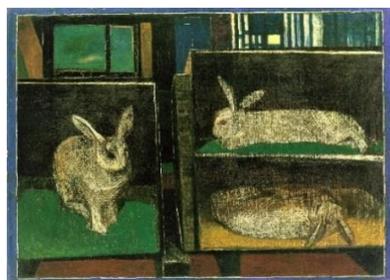
《ハムとトマト》1953年

香月泰男美術館

《駄々子》1969年

香月泰男美術館

広報用画像 ※のついた作品は「シベリア・シリーズ」



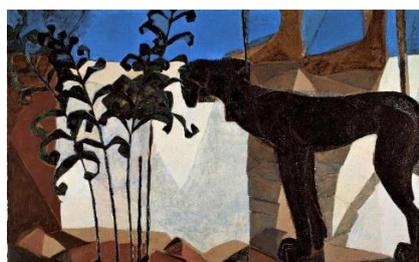
① 《兎》1939年 香月泰男美術館



② 《釣り床》1941年 東京国立近代美術館



③ 《風》1948年 東京藝術大学



④ 《散歩》1952年 愛知県美術館



⑤ 《ハムとトマト》 1953年頃 香月泰男美術館



⑥ 《告別》 1958年 東京国立近代美術館



※⑦ 《北へ西へ》 1959年 山口県立美術館



※⑧ 《避難民》 1960年 山口県立美術館



※⑨ 《涅槃》 1960年 山口県立美術館



⑩ 《駄々子》 1968年 香月泰男美術館



※⑪ 《青の太陽》 1969年 山口県立美術館



⑫ 《雪の朝》 1974年 香月泰男美術館

お問い合わせ

〒980-0861 宮城県仙台市青葉区川内元支倉 34-1 宮城県美術館 担当：小檜山・和田

電話 022-221-2111 FAX 022-221-2115

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/> Twitter https://twitter.com/miyagi_bijutu

作品画像使用申込書

特
別
展

生誕110年
香月泰男展
KAZUKI Yasuo: A Retrospective

担当行

宮城県美術館 FAX : 0 2 2 - 2 2 1 - 2 1 1 5

作品画像の使用を希望する場合、下記の注意書きをお読みになり、FAXにてお申し込みください。

- ・ 作品画像のご使用は、本展を紹介いただける場合に限りです。本展覧会終了後は使用できません。
- ・ 作品画像は必ず全図でご使用ください。トリミング、文字乗せ不可。
- ・ 掲載に当たっては、必ずキャプションをご記載ください。
- ・ クレジット表記などの確認のため、校正段階で原稿をFAXもしくはメールにてお送りください。
- ・ Web媒体については、画像・動画データを第三者が再利用できないよう、コピーガード措置を取った場合のみ使用可とさせていただきます。
- ・ 掲載物（誌、URL、DVD等）を1部ご送付くださいますようお願いいたします。

掲載希望画像	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	※○で囲んでください。
貴社名													
所在地													
TEL						FAX							
e-mail													
媒体・番組名													
発行・放送予定日	月 日 (: ~ :)												
ご担当者													

チケットプレゼント申込書

特
別
展

生誕110年

香月泰男展

KAZUKI Yasuo: A Retrospective

担当行

宮城県美術館 FAX : 0 2 2 - 2 2 1 - 2 1 1 5

本展覧会のチケットプレゼント（招待券）を希望される方は、本用紙に必要事項を記入の上、展覧会担当までFAXでお申し込みください。

なお、チケットの提供は、貴社の媒体にて本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。

貴社名			
メディア・部署			
ご担当者			
所在地	〒		
TEL		FAX	
e-mail			
掲載・紹介予定日／ コーナー名等			
希望枚数	枚（※5組10枚まで）		
通信欄 （ご希望がありましたら ご記入ください）			